

# 海野隆まいあみ希望通信

メール:sougousenryaku@gmail.com

ホームページ: [海野隆 阿見町](#)で検索 VOL1-8

## 平成25年6月議会報告



一般質問を行いました

●皆様お元気でお過ごしでしょうか。すっかり夏らしくなりました。参議院議員選挙や知事選挙があり、選挙と政治の季節が続きます。平成25年6月議会は21日に閉会しました。議決された議案は、・国会で地方税法が改正されたことに伴う条例改正、・平成25年7月1日から平成26年3月31日までの期限を切った職員給与を削減する条例、・企業団地における環境施設の面積割合緩和準則条例、・学校給食センター食器類購入、・固定資産評価委員の選任同意案件などです。

### ●JRA場外馬券発売施設の社会的実験

地元行政区への説明結果について説明がありました。日本中央競馬会は吉原土地区画整理事業地内にある場所にコンビニ程度の規模で2年間の社会的実験を行う予定です。5～6台の券売機、払い戻しは行うが食事の提供等はなくJRAでは初めての試み。同僚議員からは、社会的実験が終了したら本格的な場外馬券場ができるのではないかと、交通渋滞や風紀・教育環境等で問題はないかと懸念の表明がありました。なお、上記の懸念に取り組

むことを条件に地元行政区の同意はすでに得ています。町長も同意を表明しています。

### ●その他、諸計画作成の報告がありました

- 1、阿見町道の駅基本構想について
- 2、阿見町協働の指針について
- 3、阿見町教育振興基本計画について
- 4、阿見町生涯学習推進計画について

以上は、今後のそれぞれの行政施策の基本となる非常に重要な行政施策上の計画ですが議決事項ではありません。

### ●海野隆の一般質問

執行部とのやり取りを通じて、町政の課題について共通の認識をもてる機会だと思いつかりと質問しました。地方自治体は二元代表制を取っており議員の発言には多くの町民の声や意見が背景にあります。執行部の皆さんには、議員の質問には「町民に説明するという気持ち」で丁寧な答弁をお願いしました。



武器学校上空から見た阿見町

今回、私が質問したのは、第1に阿見町入札及び契約制度の現状と改革について、第2に太陽光発電システムの価格について、第3に子ども達及び高齢者の安全対策の現状と対策

について、の3点について執行部の考えを質しました。

阿見町は平成25年度の入札について改革を行いその内容について公表しています。改革を行うということは、問題点、改善すべき点があったということになります。改革を行うことになった背景も含めてやり取りを致しました。具体的なやり取りについては以下の通りです。

### ●第1に阿見町入札及び契約制度の現状と改革について

**海野：**現行の議会に付すべき契約金額1億円以上を見直す考えはないか。

**天田町長：**地方自治法に基づき条例を制定しており見直す考えはない。

**海野：**地方自治法施行令の例示は議会に付すべき金額は5千万円だ。昨年度に5千万円以上の工事は何件あったか。阿見町を除く県内すべての町村は5千万円以上となっている。なぜ阿見町だけ異なっているのか根拠を聞きたい。

**総務部長：**平成24年度は7件だった。阿見町は他の町村と比較すると人口も多く事業件数も大きいものが数多くあった。

**海野：**当時の社会情勢や経済状況は理解できるが、阿見町だけ条例改正を行わないというのは、理解できない。改正する意思はあるか。執行部になれば議会から改正案を出すことになる。執行部を縛るという考えはない。

**総務部長：**議決案件になると手数料がかかるのでこのままでお願いしたい。

### ●第2に太陽光発電システムの価格について

**海野：**町が導入した太陽光発電システムは高価格になっている

**教育長：**近隣自治体の導入実績と比較して価格は妥当

**海野：**同時期町内民間の太陽光発電システムは、1キロワット当たり30～35万円前後の価格。行政の導入したシステムは75万円にもなっている。なぜ、行政のシステムは高価格になるのか。

**教育次長：**行政が導入する場合、公の財産を築くため設計や契約事項について精査を重ねている。また、補助事業のため国交省の基準がある。一般管理費があるところが異なる。今回の価格は決して高くはない。

**海野：**民間の工事や契約はきわめて厳格に行われている。むしろ行政と比較して民間の方がシビアなくらいだ。今回の比較では、工事費等も民間がコンクリートにアンカーを打っているのと比較し、給食センターの工事は波型鉄板に取り付けるなど安価になるはずだ。今後、町が事業主体となって太陽光発電システムを導入する計画があると聞くが、しっかりと考慮していただきたい。



### ●第3に子ども達及び高齢者の安全対策の現状と対策について

**海野：**自転車通行・通学の安全対策を図れ

**教育長：**学校安全計画の中で実施している

**海野：**中学生、高校生の通学も含めて子ども達が自転車を利用する機会は多い。自転車同士ばかりではなく、自動車と自転車、自転車と歩行者という組み合わせでも、事故につながりそうな道路箇所が散見される。事故件数及び運転講習の現状を聞きたい。自転車保険は加入を促進すべきだ。補助も考慮したらどうか。

**教育長：**平成24年度で自転車のかかわる事故は7件、登下校中は4件あった。学校では安全計画の中で自転車の安全運転の講習を行っている。自転車保険は基本的に保護者が加入すべきだ。加入率も把握していない。